東京税理士会　西新井支部　支部長賞

「祖母の生活を支える仕組み」

足立区立　鹿浜菜の花中学校

二年　鈴木　倖生

私の祖母は、軽度の認知症です。足腰も悪く、要介護２の認定を受けています。昨年祖父が亡くなり、一人暮らしになってしまいました。祖母の生活はどうなってしまうのかと心配でしたが、今とても明るく元気に生活する事ができています。それは「税」の支えがあったからです。

現在祖母の家には週５回訪問ヘルパーさんが来て身支度や部屋の掃除など生活の援助をしてくれています。また介護施設を利用しながら過ごしています。介護施設では、生活の補助だけでなく、祖母達を笑顔にしてくれるイベントもたくさんあるそうです。祖母に会いに行った時、綺麗にネイルされた爪を嬉しそうに見せてくれました。でもそれらの費用は、働いていない一人暮らしの祖母がどうやって払っているのかと思い母に聞いてみました。母は「全ての利用費は、税金でまかなわれているから安くてとても助かるよ」と教えてくれました。具体的に費用を聞いてみると、自己負担一割の目安で、デイケア一日約千六百円、ショートステイ一泊約八百円、訪問ヘルパー一回四十分以内で約二百五十円、あといつも手続きや相談にのってもらっているケアマネジャーさんには、費用はかかっていないそうです。私は、想像以上にとても安くて驚きました。「税」という社会の支え合いの仕組みがあるから祖母は生活ができているんだなと実感しました。また私自身も

当たり前に学校に通えるのは、税のおかげなんだと改めて思います。

これまで税は「強制的に払っているもの」というイメージでしたが、ただ支払うものではなく、誰かの生活を守るために使う、みんなで出し合う「貯金」という認識に変わりました。その貯金は多ければ多いほど良いなとは思いますが、今少子高齢化が進み社会保障の費用が増えています。またその費用を負担する働き手が減っています。高齢者一人を支える働き手の人数は、過去3.6人から1.9人へと減り、将来は1.3人まで少なくなるそうです。若い人達に税金の負担が増えるかもしれないですが、いつまでも誰もが安心して暮らせるままであってほしいので、私が大人になったらしっかり働いて税金を納められたらと思います。また、税金は特に困っている人にすぐに届いてほしいです。祖母は、介護サービスの手続きを家族がしたのでスムーズに利用することができましたが、家族がいない一人暮らしだったらどうなっていたのかなと思いました。例えばある年齢になったら子供が「義務教育」で学校に通うように高齢者も「義務支援」として健康状態や生活状況を必ず把握するようなシステムがあれば安心だと思います。

祖母は87歳です。以前より明るくなり笑顔が増えました。まだまだ長生きしてほしいです。改めて私達の生活の安心や安全を守ってくれる「税」に感謝したいです。